矢作川　異常繁茂する生き物　―オオカナダモ―

矢作川を元気にするために

オオカナダモを駆除しています

オオカナダモ駆除は
一人でも多くの方の
力が必要です。元々いた
生物のすみやすい
矢作川にしましょう!!

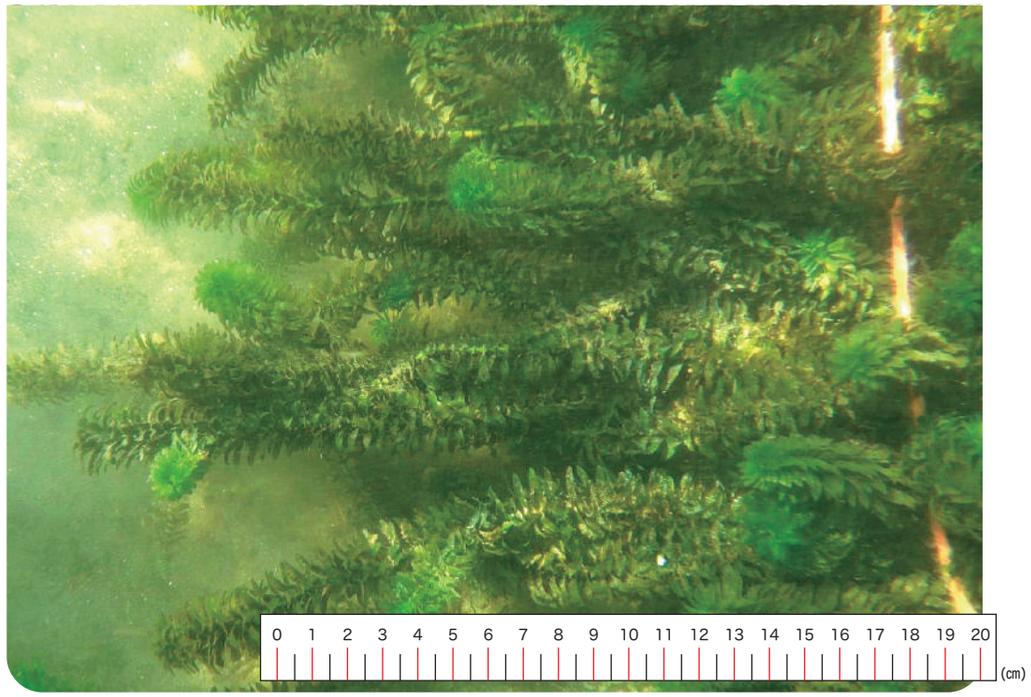
矢作川の環境を守る会

オオカナダモは外来生物なんです！

オオカナダモは南アメリカ原産の水草（沈水植物）です。日本には、大正時代に植物生理学の実験用に持ち込まれ、1940年代にはすでに野生化していたといいます。オオカナダモは在来種のクロモや外来種のコカナダモと同じトチカガミ科に属し、それらと似ていますが、一回り大きいことで見分けられます。オオカナダモは日当たりがよく、浅い、流れの緩い場所で、水温16～28℃ぐらいでよく育ちます。

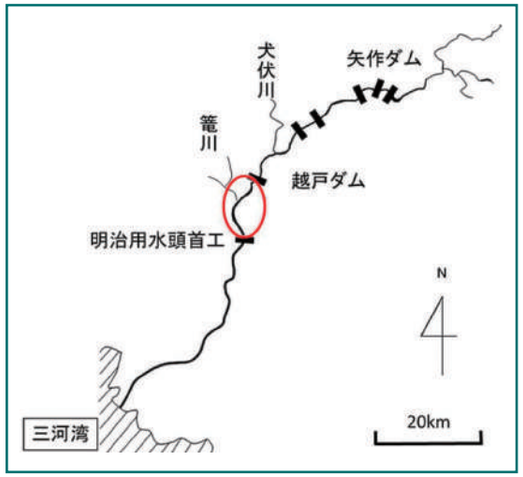
日本の各地で繁茂しているのはみな雄株で切れ藻（植物体の断片）から生長（栄養繁殖）したものです。オオカナダモは、オオカナダモは金魚藻のひとつで、「アナカリス」という名前でペットショップなどで安価に売られています。

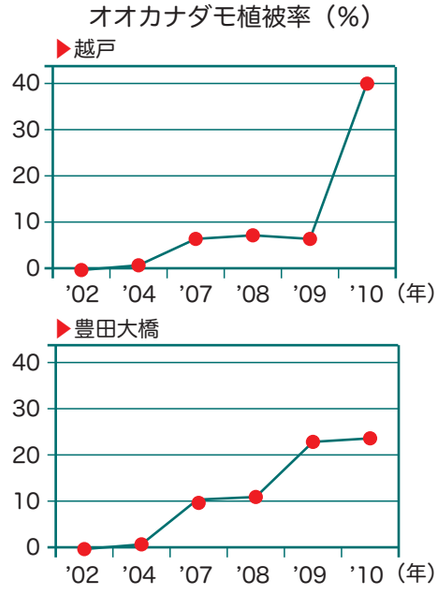
白い花をつけます



矢作川では？

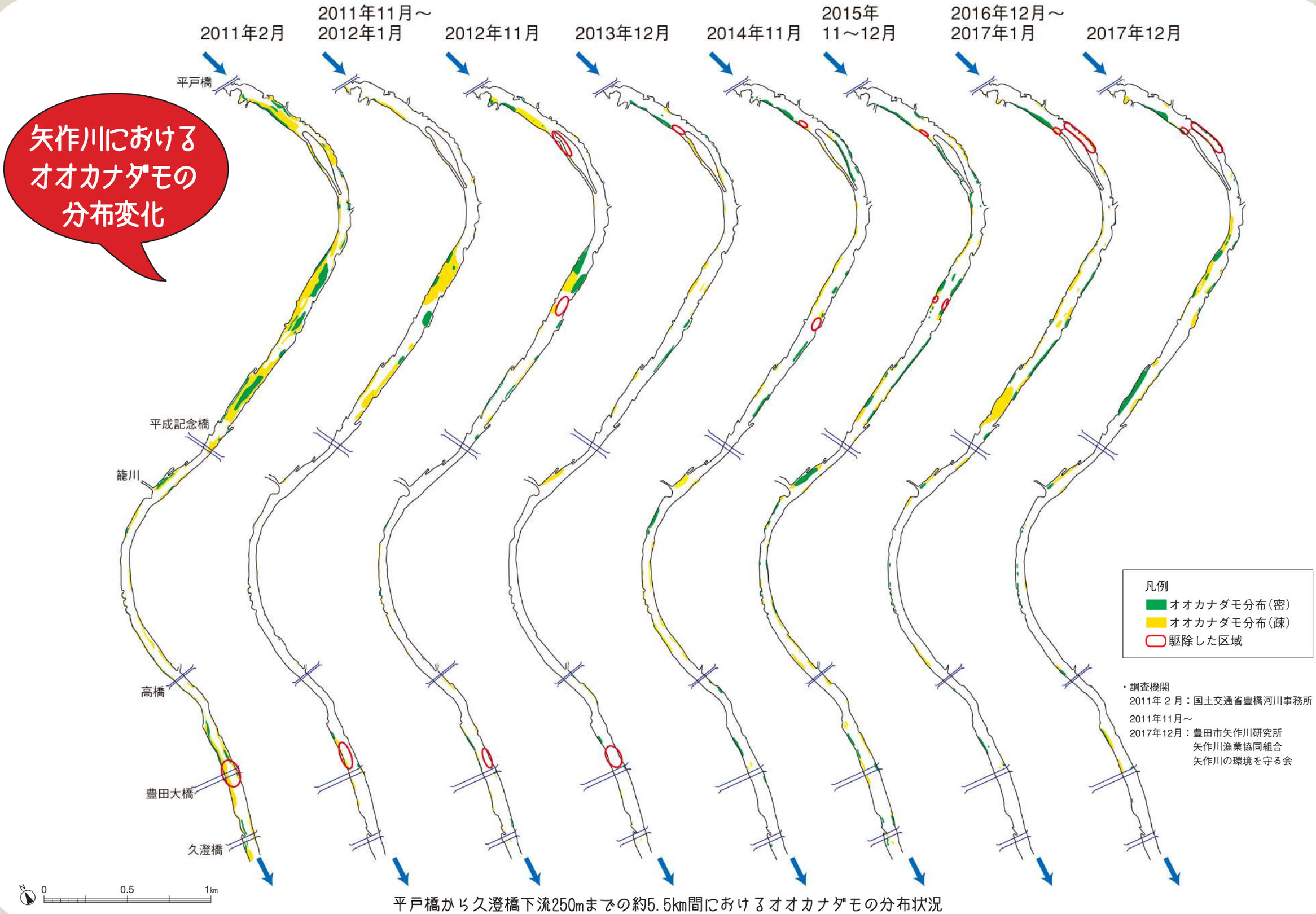
オオカナダモは2007年ごろから目立ちはじめ（下右図）平戸橋下流から久澄橋間（下左図 赤丸）で大繁茂しています。前から生えていた川岸に近い流れの緩やかな部分だけではなく、友釣りアユの漁場となる流心の瀬にまで侵入し、釣りの障害になっています。





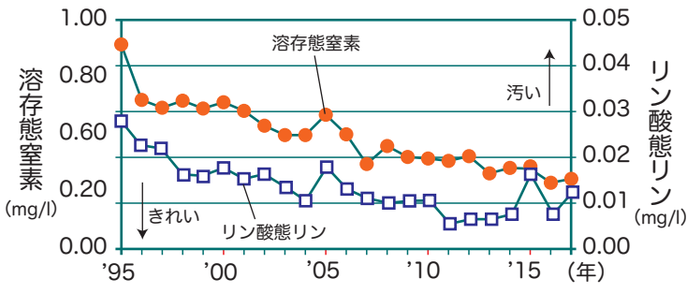
市街地の近くでは、豊田大橋などから水面を眺めた際にオオカナダモ群落が黒く見え、河川景観の悪化も懸念されています。

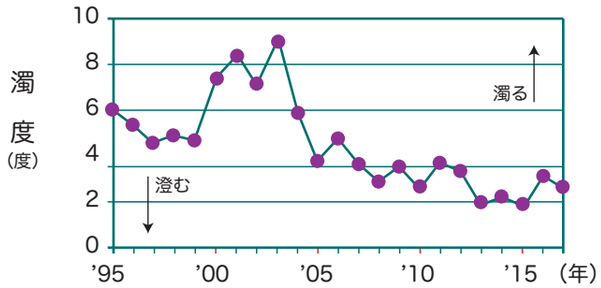
オオカナダモの繁茂は、川底の石を覆い尽くしてしまうことで、アユの餌となる付着藻類、川底にすむ水生昆虫や底生魚に悪影響を与え、矢作川の水生生物の多様性を低くしています。

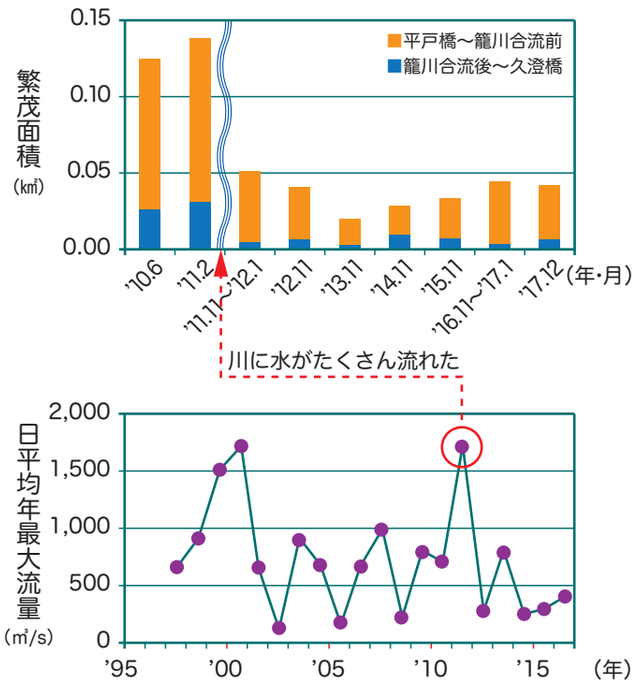


平戸橋から久澄橋下流250mまでの約5.5km間におけるオオカナダモの分布状況

オオカナダモの生長に関係していると考えられる川の水の汚れ（窒素とリン、汚れるとそれが肥料となってよく育つ）と濁り（濁ると葉に光が当たらず育たない）の変化をみると（右図）、オオカナダモが異常繁茂し始めた2007年頃に大きな変化はみられていません。







一方で、2011年の大規模な出水（日平均最大流量、約1700㎥/s）によって、オオカナダモの分布面積は半分になりました。このことから出水によるかく乱（根こそぎ流されたり、砂利が当たって茎が切れる）はオオカナダモの繁茂を制限していると考えられます。

オオカナダモはどうして増えたの？

矢作川の環境を守ります！

駆除と併せて川底を動きやすくすることで矢作川を元気にします。

重機で剥ぎ取ったオオカナダモをタライに乗せて陸上に運びます

切れ藻が下流に流れないように手網で掬い、タライに入れます

駆除したオオカナダモは周辺に穴を掘って埋めます

矢作川の環境を守る会の皆さん

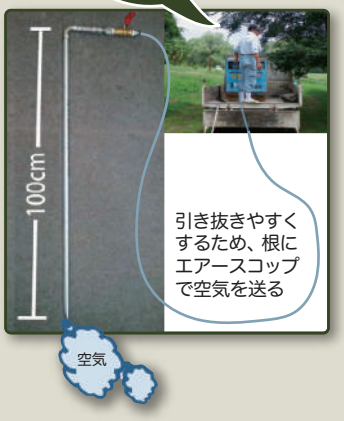
『矢作川の環境を守る会』は、オオカナダモの駆除活動に参加していたNPO法人矢作川森林塾、矢作川天然アユ調査会、矢作川漁協（平戸橋支部、豊田支部）、矢作川の釣り師のグループなどが参画し、2018年7月に発足しました。

矢作川の環境を守る会では、2018年8月以降、駆除活動を年に数回実施し、オオカナダモの駆除をはじめ矢作川の川底環境の改善に取り組んでいます。

皆さん、水槽で育てているオオカナダモ（アナカリス）を自然界に流さないように気をつけてください。

調査データは豊田市矢作川研究所提供

オオカナダモ
駆除のために
道具を開発した



エアースコップ
「藻っとトレール」
を使った駆除

駆除活動に参加、
見学を希望される
方はこちらまで

矢作川
異常繁茂する生き物
ーオオカナダモー

発　行：矢作川の環境を守る会
代表　加藤重雄
〒470-0331
豊田市平戸橋町波岩87
矢作川漁業協同組合内
電話：0565-45-1064

2016年2月 発行
2018年7月 一部改定